

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	機能再建・再生科学領域 顎口腔機能再建学教育研究分野 氏名 福田 はるか
指導教授氏名	小林 恒
論文審査担当者	主 査 松原 篤 副 査 中村 和彦 副 査 漆館 聡志
<p>(論文題目)</p> <p>一般地域住民における口臭の原因と精神心理的影響に関する研究</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>口臭症の中には実際に口臭がある真性口臭症の他に心理的口臭がある。心理的口臭のなかの口臭恐怖症は精神心理的な加療が必要であり、このような症例では精神的な苦痛を感じ、社会生活に影響をおよぼす場合もありうる。しかし、従来の口臭に関する研究では対象数が少ないため、本研究では平成 30 年度岩木健康増進プロジェクト健診に参加した一般地域住民 944 名を対象として口臭と嗜好品・口腔内環境との関連、さらに口臭と口腔関連 QOL ならびに抑うつ傾向(Center of epidemiologic studies depression :CES-D)scale を用いた精神心理的影響の関係について調査を行った。</p> <p>その結果、口腔内環境の特徴としては口臭を気にしている割合が女性の方が有意に高く、う蝕歯数と歯周病に罹患している人数は男性の方が有意に多かった。また、1 日のブラッシング回数は女性の方が有意に多かった。口臭と口腔内環境の関係においては、男性では口臭と歯周病に有意な関連が認められたが、女性では口腔内環境と口臭が有意に相関する項目はなかった。その理由として、女性はブラッシング回数が男性より多くう蝕歯数も少ないことにより、口腔衛生状態が良好に保たれているためと考えられた。</p> <p>一方、口臭と精神心理的影響については、男女ともに口臭を自覚している場合では有意に口腔関連 QOL ならびに CES-D の得点が高く精神心理的影響を受けていた。特に、口臭がなくても口臭を自覚している心理的口臭症の被検者は男女ともに多く、口腔関連 QOL を悪化させ、うつ傾向を増悪させていることが明らかとなった。</p> <p>本研究は、口臭と口腔内環境との関連ならびに口臭と精神心理的影響の関係を明らかにしたもので、口腔衛生学の発展に大きく寄与するものであり、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	体力・栄養・免疫学雑誌 32 (1) ; 11-18、2022